

第6章 障害学生支援の地域ネットワークについて

独立行政法人日本学生支援機構客員研究員
筑波大学講師
名川 勝

ネットワークの形成については、合同ヒアリングの際に発言された内容に基づき、得られた結果を整理する。合同ヒアリングは今回、北海道、関東、中部、近畿のエリアで行なわれたため、言及できるのはそのエリアに関する情報に限られる。もちろんこれらの情報は合同ヒアリングの発言中から関連した部分を抽出したもので、ここで指摘された情報がそのエリアの実情すべてを言い表せているわけではない。今回はこのような特徴があることを確認したところで、今後のあり方の参考にすることを考えたい。なお、以下の議論にあたっては、合同ヒアリングにおいて発言された記録に基づいて整理しているが、個別の大学組織が特定されないよう配慮している。また発言の一部については巻末の合同ヒアリングにおける主な意見・話題等を参照されたい。この表に掲載された内容は発言の一部を一定の手続きに従って抽出したものであり、発言の全てではない。

得られた発言を見ると、ネットワークとしては、大学間での連携を指すものと、学外機関を含めた連携を持つものが紹介されている。以下では大きくその2形態について概観する。

1. 大学間での連携を主としたネットワーク

まず大学間連携形式のネットワークについては、コーディネータ養成講座や委員会としての活動を共にした経験から始まったかたちが見られる(近畿、北海道)。中部については準備中とされ、また関東ではそのような動きは聞かれなかった。

機能としては、情報やノウハウの共有が見いだせる。支援経験の少ない障害学生に対する対応のあり方などを聞く、あるいはメーリングリストを通じてやり取りする、もしくは情報を共有できることを利点と指摘する発言も見られた(近畿、北海道など)。

このようなネットワークの形成に何に関連しているのか、要因や特徴などを示唆するような発言は見出せなかった。近畿のようなエリアは地域的に比較的近く大学等が存在するため、障害学生以外の他の点についても連携しやすいという特徴はあるかもしれない。しかし北海道のような互いに遠距離にある場合でもネットワークが形成される場合はあり、また関東ではネット

ワークが意識されていないため、単純に地理的な特徴があるとは言えない。今のところは、必要性和契機の有無が関連しているように思われる。

この場合、ネットワークの役割はもっぱら情報の共有だったが、一部に担当教職員の孤立を防ぐという指摘もあった。支援活動や組織が発生して間もない大学や支援対象がたいへん少ない機関ではこのような懸念も想定される。単に情報を得るだけならば JASSO の提供する情報はかなりの有用性を持っていると思われるが、それだけではない、身近に悩みを共有できる関係性の存在については、別の解消法が必要かもしれない。実際調査で分かるとおり、大学等における障害学生支援の取組は、いわば初期的な動きを経て、大規模大学等を中心として必要な体制整備などの取組や支援方法などの含めたあり方の議論は活発になってきた。しかし未だに小規模な大学等や、支援障害学生が少ない或いは間欠的にしか支援ニーズが発生せず支援組織体制の維持継続が困難な大学機関等については、むしろこれからの課題も考えていくべき時に来ている。そのため、小規模な大学等にとってのネットワークの意味と活用法、加えてそれらの組織へのアクセス法などについては今後さらに議論されて良いと考える。今回のヒアリングでは、新年度の対応の流れなどがわかるのは財産だという発言もあった(北海道)。

なお今回の合同ヒアリングでは、ネットワークの機能やあり方として、情報以外の共有、すなわち支援者の交流や共有(他の大学等に支援を派遣すること)や設備等資源の交流・共有などについてはあまり報告がなかった。今回のヒアリング以外であれば若干の例を聞くことはあるので、司会進行の問題でもあったかもしれないが、今回の発言としてはほとんど得られていない。そのため今のところは、これをネットワークの機能とするのは困難である。ただしそのような機能を必要とする発言はあり(ノートテイカーのシェアリング、支援学生が卒業し支援体制がいったん切れた後に再び必要が生じた際の取組支援についてなど)、今後の動向として引き続き関心を持っていくこととしたい(支援の方法として、情報保障における遠隔地支援を行なう例もあるが、今回のような地域を対象とするヒアリングでは紹介されなかった)。

2. 学外機関との連携を含むネットワーク

一方、就職支援をメインとした外部機関を含めたネットワーク形成が、関東、中部、近畿で紹介された。発達障害者支援センター、障害者職業センター、就労移行支援関係の事業所、あるいは関連企業などとの関係あるいは参加が見られるようである。これは実質的な就職やキャリア支援の意味合いが強いことと、加えて学習の機会として展開される場合もあった(学習会の開催、出前講座など)。これらは当然に地域資源の有り様によって左右されると思われるが、いずれにしても必要性によって発生、展開されている。JASSO でも全国もしくは大きなエリアでの就職・キャリア支援を目的としたセミナーなどの企画は開催されているが、具体的な利益を

得てこれを継続的に活用していくためには、ネットワークの形成が不可欠である。障害学生支援の関心がこれまでの入学や修学における支援から、現在は次第に卒業やキャリアの形成と就職の支援に比重を移しつつある。そのような中であって、こうした学外機関との連携のあり方を整理し、どのような連携のかたちが良いか、どのような機能をもたせることが有効かなどの情報を得て整理することは、今後ますます必要になってくるだろう。この際にも、大学の規模や置かれた地域性などの諸条件を考慮したあり方の検討が有意義と思われる。

3. その他のネットワーク

なお、キャリア・就職以外の学外機関連携として、学生の通学ニーズを契機とした地域との連携の模索が報告としてあがっていた(関東)。これは稀有ではあるが、通学のニーズ自身はどの大学等でも発生しうる課題であり、その意味では今後の展開に関心を払いたい。